

セキュリティ投資 × ガバナンス 実態調査 2025

タニウム合同会社

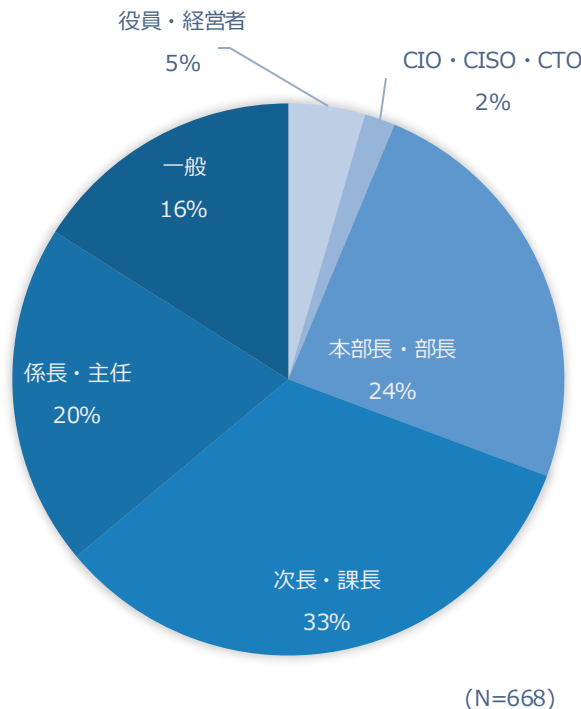
セキュリティ調査概要

対象と属性：主に大企業のIT管理者と担当者

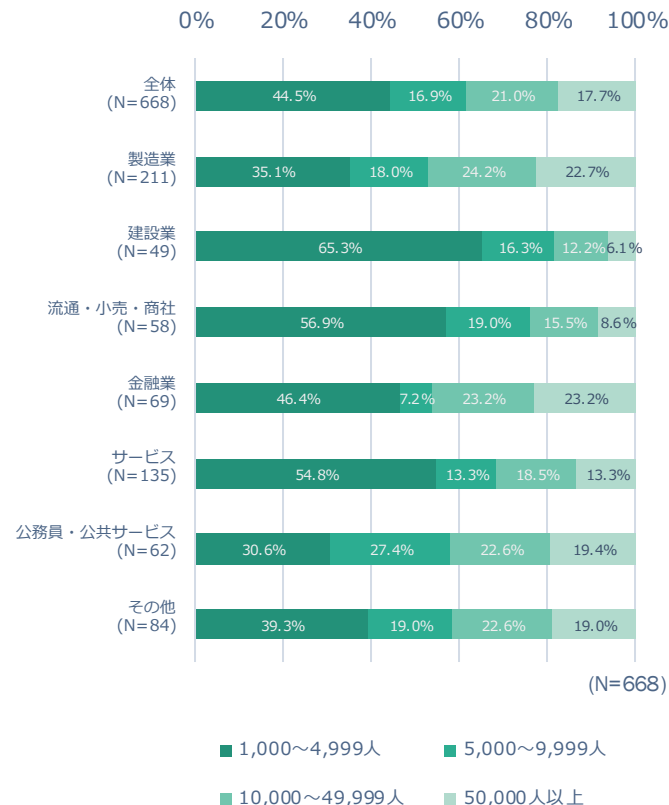
調査方法：Web調査

人数：668人

期間：2025年5月～6月



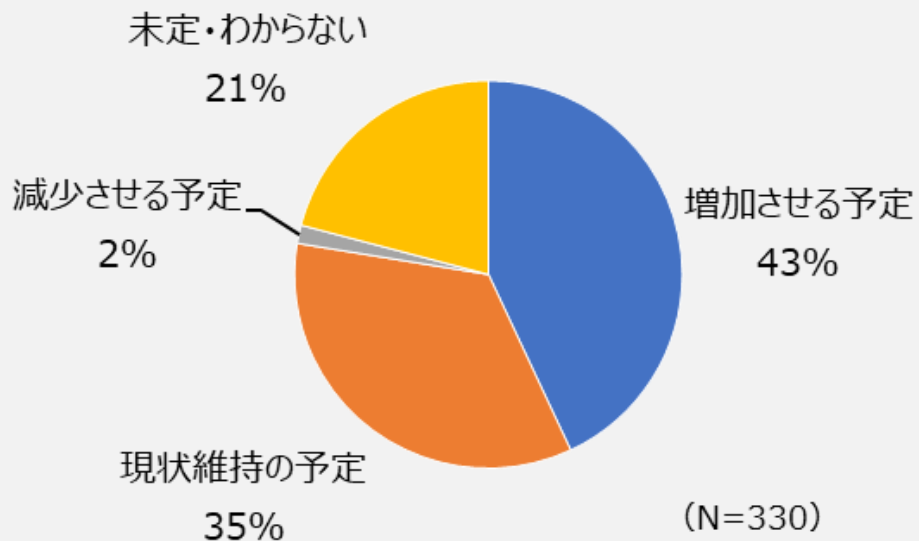
■ 役員・経営者 ■ CIO・CISO・CTO ■ 本部長・部長
 ■ 次長・課長 ■ 係長・主任 ■ 一般



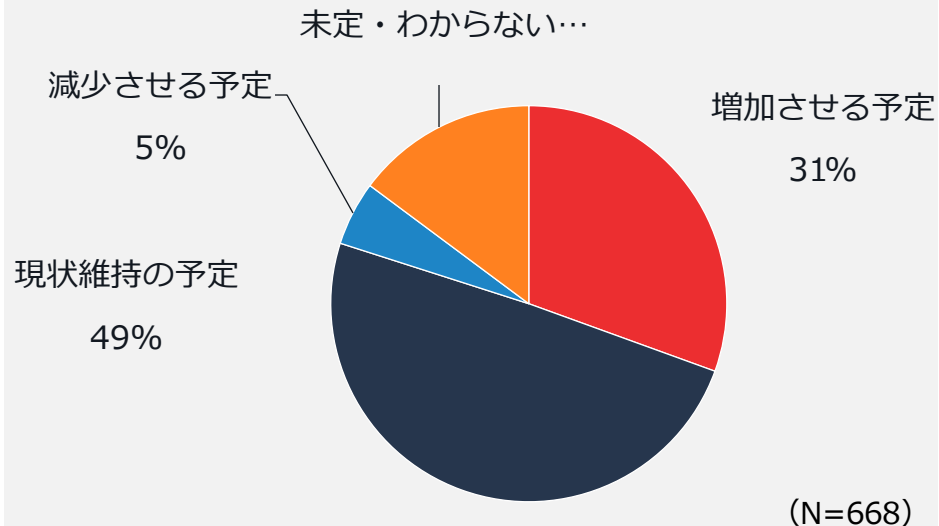
■ 1,000～4,999人 ■ 5,000～9,999人
 ■ 10,000～49,999人 ■ 50,000人以上

セキュリティ予算を今後増加させる予定はあるか

2024年調査

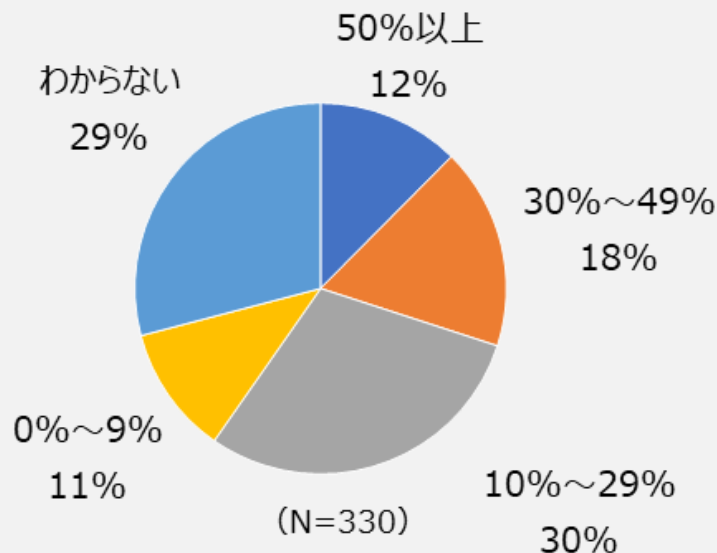


2025年調査

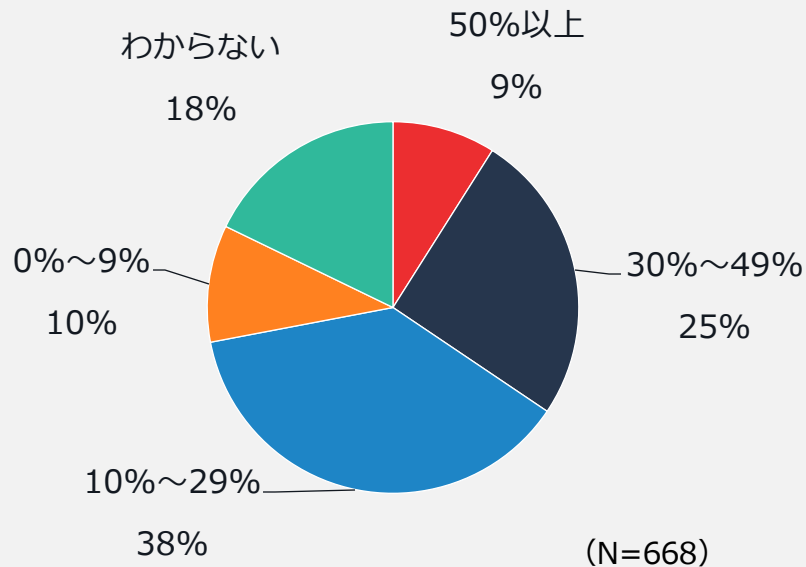


年間のIT予算のうち、セキュリティ予算に割り振られる金額は全体の何%程度か

2024年調査

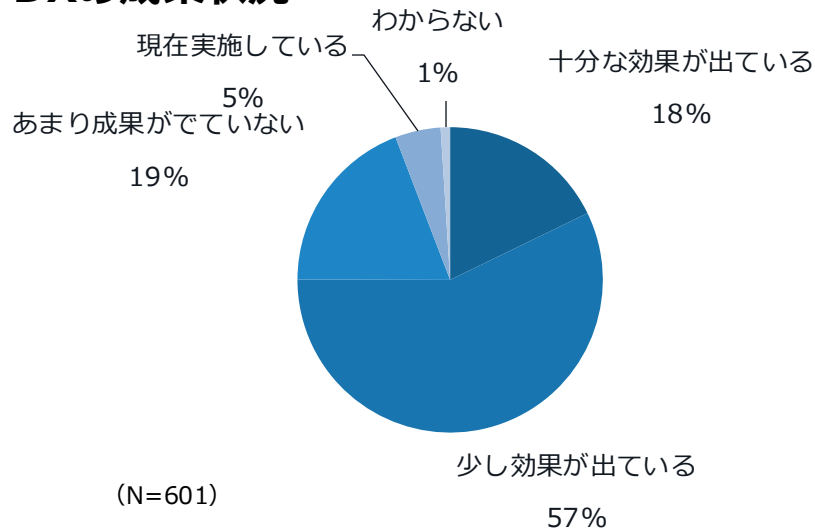


2025年調査

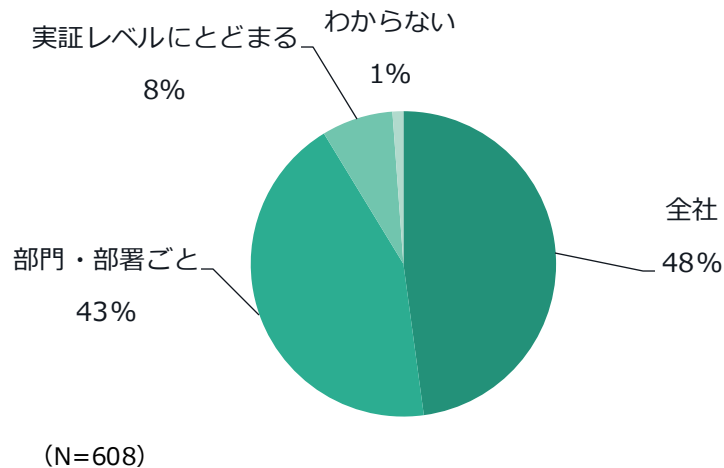


DXの推進状況

DXの成果状況

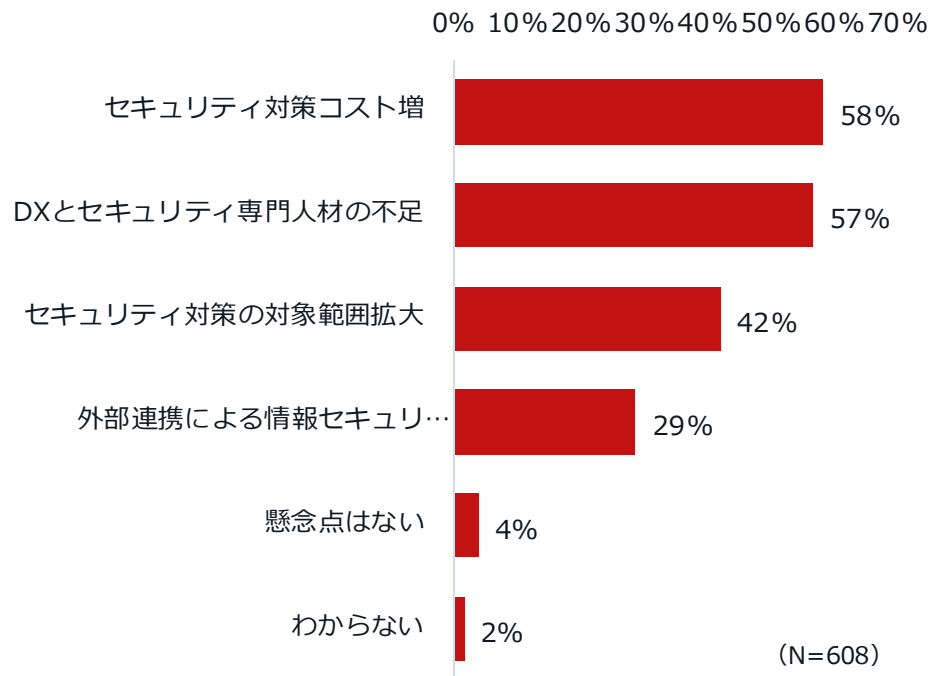


DXの実施範囲



- DX取り組みは多くの企業で成果を出し始めており、全社的な成果も50%程度となっている

DXを実施したことによる、セキュリティ懸念



- DXに伴い、セキュリティ施策を合わせて実施
- デジタル化の推進にセキュリティ施策が不可欠だと言われており、予算の拡大を裏付ける結果となっている
- ただし、多くの企業で人材の課題を抱えている

セキュリティガバナンスが注目される背景

- サイバー攻撃の高度化
- セキュリティは経営課題化
- 国際標準やガイドラインでのガバナンス強調
 - NIST CSF2.0



セキュリティガバナンスが注目される背景

コーポレートガバナンス

セキュリティ

サイバー
セキュリティ

IT

ガバナンスの要素

透明性

公正性

コンプライアンス

リスク管理

意思決定の明確化

ステークホルダー対応

説明責任

監督とチェック機構

サイバーセキュリティガバナンス

正確かつ改ざんのない状況把握と報告

ポリシーに基づいた活動

セキュリティポリシー遵守

脆弱性等、未来のリスク管理

正確なリスク把握による判断とアクション

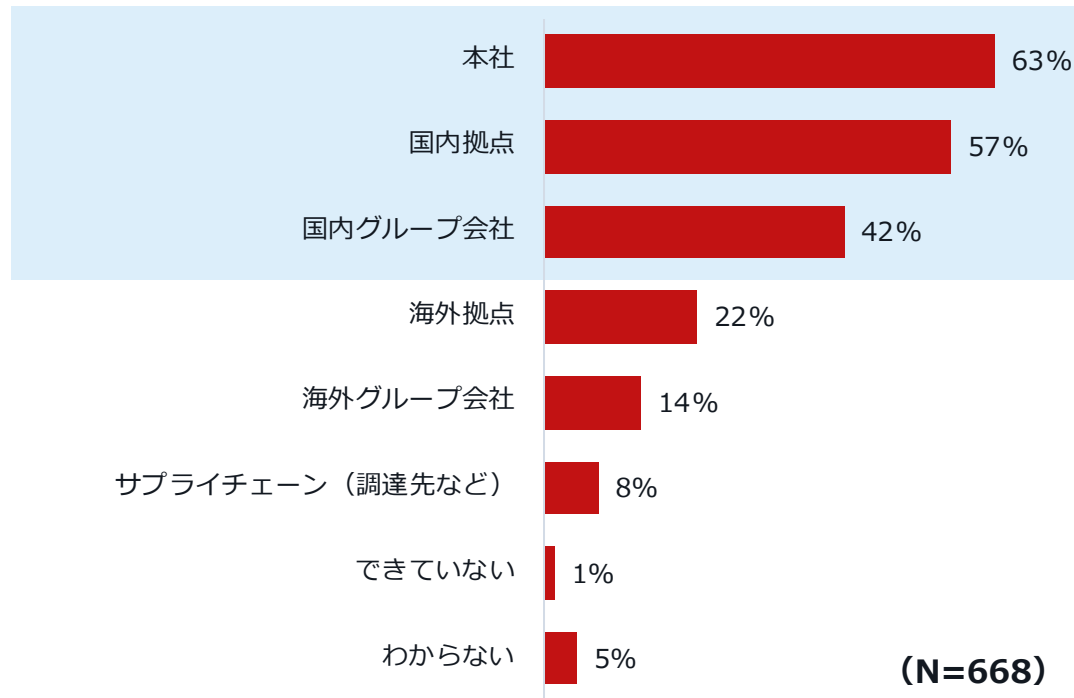
状況調査と把握と説明

タイムリーで正確な情報による説明

セキュリティモニタリングの実施

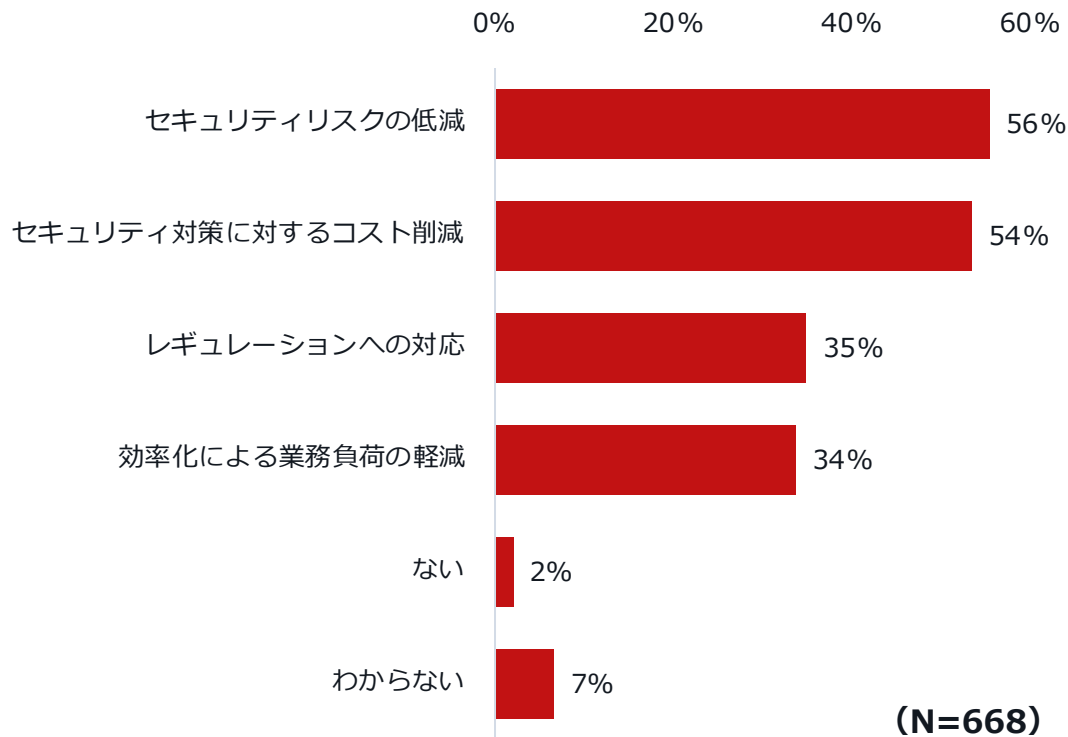
セキュリティの統制範囲（ガバナンス）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%



- セキュリティガバナンスとして統制できている企業は50%程度
- ただし、対象は国内が中心

セキュリティガバナンスに期待する効果、推進する目的

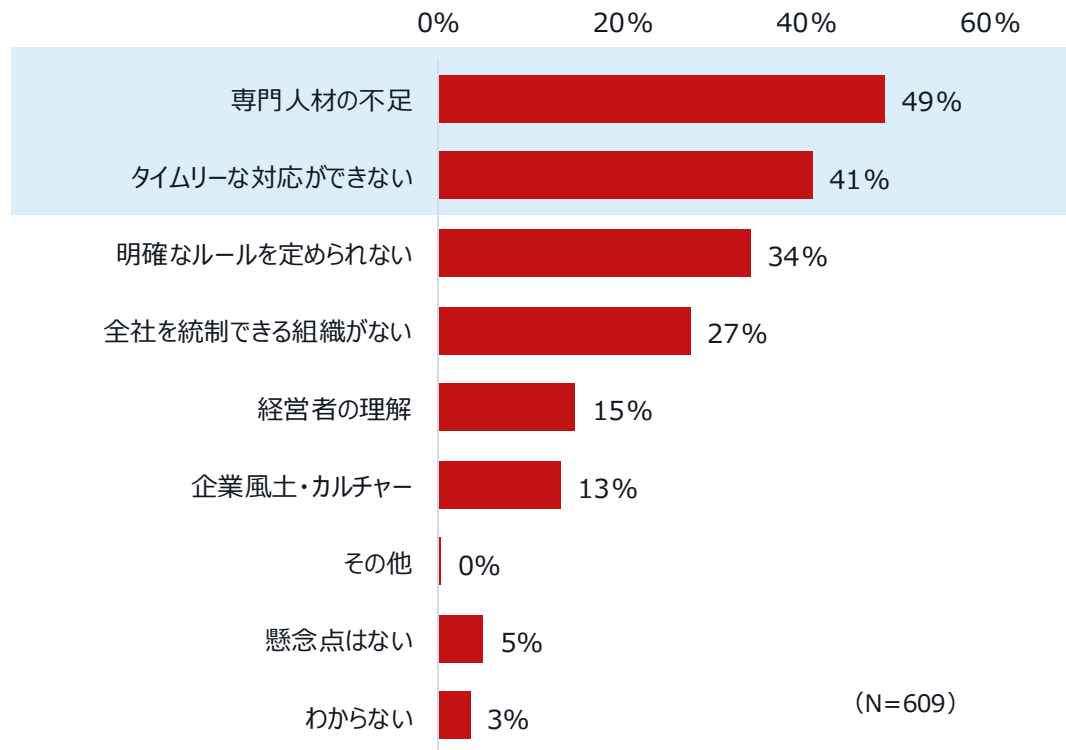


• セキュリティコスト削減は興味深い結果

— 考えられる理由

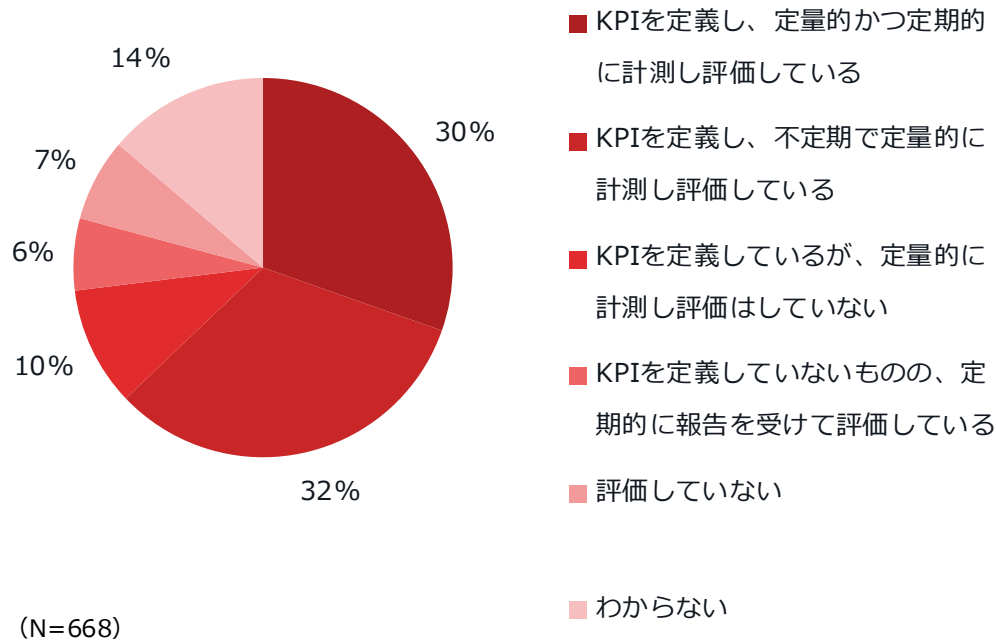
- 運用統合する効果
- ツール統一による効果
- インシデント等の発生を減らす効果

セキュリティガバナンスを実現する上での懸念



- 詳細なデータの相関分析から、ガバナンスを実現できない2つ要因
 - 「専門人材の不足」
 - 「タイムリーな対応不可」

セキュリティの状態を定量的に評価しているか

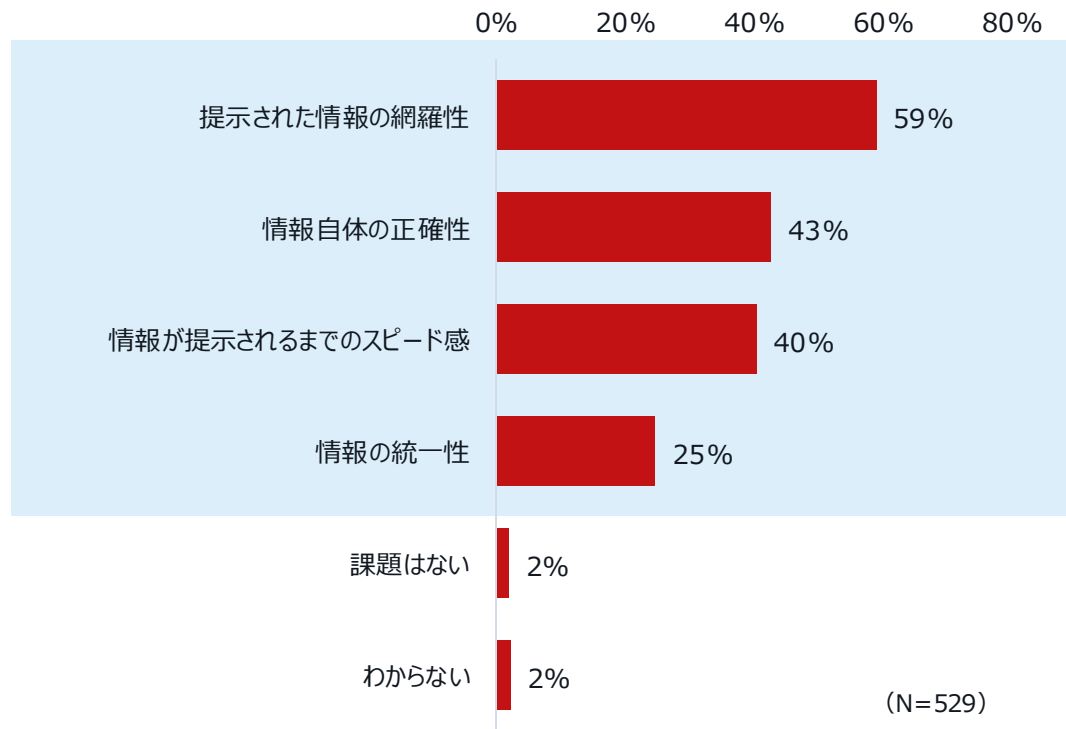


- KPIを定義している が72%
- しかし、適切にかつ定期的に評価ができている企業は30%しか存在しない

運用KPIレポート 例

運用時の効果測定 項目		測定方法	ターゲット KPI	KPI (今回)	KPI (前回)	動向
特定	エンドポイント端末の可視化	あるべき端末数-把握数→把握率	95%	95%	95%	→
	リモートワーク数の可視化	端末数-把握数→把握率	100%	95%	95%	→
	導入ソフトウェアの可視化	端末数-把握数→把握率	100%	90%	95%	↓
防御	各契約ライセンスの利用状況の把握	契約数-実稼働数→契約内非稼働率	100%	80%	85%	↓
	資産・サービス遊休状況	契約保有数-実稼働数→遊休率	10%	15%	13%	↓
ITセキュリティ	非管理端末&サーバの可視化	野良検出数	10台	35台	50台	↑
	OS&アプリのパッチ適用状況の可視化	パッチ数-適用数→適用率	97%	100%	100%	→
	セキュリティツールの稼働率	EDR・EPP適用稼働率	95%	95%	90%	↑
コンプライアンス	標準外ソフトウェアの可視化	不明ソフトウェア検出数	20件	15件	10件	↓
	ライセンス違反件数	契約数-導入数	5件	10件	5件	↓
	未許可端末利用数	ポリシー・ルール違反件数	5件	10件	5件	↓
	未許可サービス利用数	ポリシー・ルール違反件数	20件	30件	20件	↓

セキュリティ評価の課題



- **網羅性、正確性、スピード、統一性**が主な課題に
- これらは、ガバナンスとして重要な要素

調査結果の考察と提言

調査結果サマリー

セキュリティ予算

DXの推進が進む中、セキュリティ施策も合わせて実施しており、予算も増加させセキュリティの対策を行なっている。また、更なるDXの推進に向けたセキュリティ予算の継続的投資が必要である。課題は専門人材の不足と今後セキュリティ施策の最適化による予算の低減が必要と考えられている。

セキュリティガバナンス

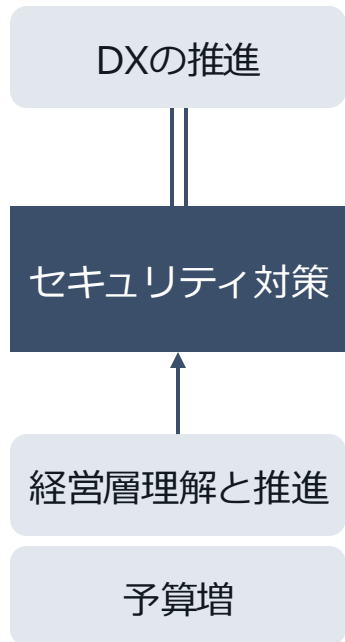
セキュリティガバナンスの重要性も認識されつつあり、国内での統制を進めている企業も増えている。ただし、海外展開を行っている企業も多い中、海外を含めた統制が不十分であり、課題としては、同じく専門人材の不足が問題となっている。また、タイムリーな対応が取れていないという点でも統制の難しさの結果がでている。

セキュリティ評価

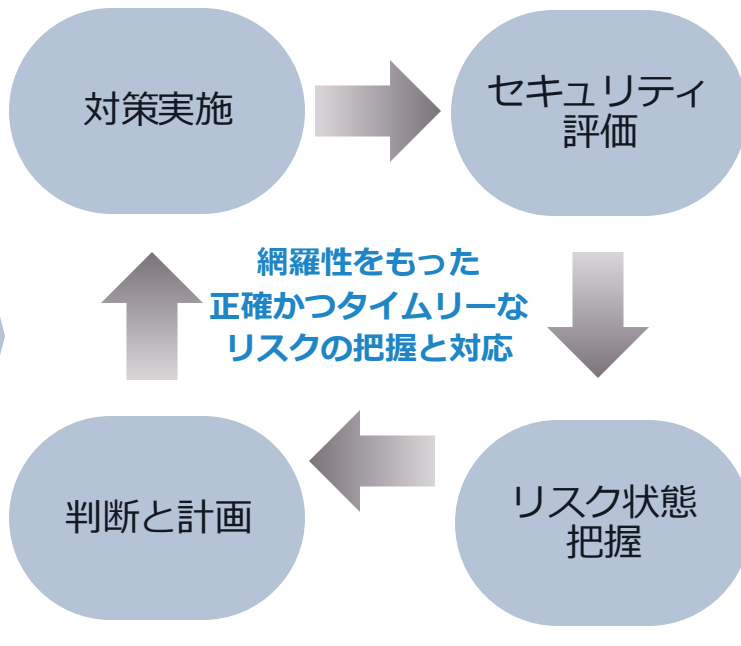
評価がガバナンスの重要な観点ではあるが、網羅性、正確性、スピード、統一性が課題となっており、KPIの定義し目標設定はできているものの、定期的に適切に評価ができていないことが浮き彫りとなっている。

まとめと提言

現状



セキュリティガバナンス実現に向けたプロセス



課題

- 専門人材不足
 - 正確性
 - 即時性
 - 網羅性
 - 効率性
- 投資効率の最大化

対策

- テクノロジーの活用が不可欠
 - 正確性、即時性、網羅性の実現
 - 自動化による効率化
- AIによる専門人材の補完

本件に関するお問い合わせ先：
タニウム合同会社 マーケティング本部
jpmarketing@tanium.com